福井県図書館協会報　No. 31

福井市城東1－18－21
県立図書館　県図書館協会発行

お泉水

2001年3月25日

❑平成12年度全国図書館大会

平成12年度（第86回）全国図書館大会が平成12年10月25日から27日までの3日間那覇市で「万国津梁の邦沖縄から21世紀へ飛翔－図書館の夢を翼にのせて－」というテーマのもとで開催された。

第1日目は沖縄県立武道館アリーナ棟で開会式に続いて全体会、基調報告、記念講演が行われた。第2日目には分科会、第3日目には全体会、閉会式が行われた。

琉球大学教授高良倉吉氏による記念講演「沖縄『文化』復権の課題」では沖縄戦そしてアメリカ統治による沖縄の文化遺産の徹底的破壊から文化遺産の回復特に首里城復元への篤き思いが語られた。最近沖縄が世界文化遺産になったことは文化復権への新たな出発となるであろう。

私の参加した短大・高専図書館の分科会では「21世紀の短大・高専図書館マネジメント」の統一テーマで基調講演があり、高専分散会では同テーマでパネルディスカッションが行われた。厳しさが増す一方の予算、職員減の現状において、これを乗り越えるには、図書館と情報処理センターの機能を併せ持つ組織への改革、および他高専図書館、大学図書館、公立図書館との連携協力を考えていく必要性を感じた。

（福井工業高等専門学校　吉村　芳武）

❑平成12年度全国公共図書館研究集会

◇整理部門

当日はあいにくの雨模様であったが、研究集会は石川県立図書館を会場に開催され、250名以上が参加した。

基調講演では、情報技術の革新により社会全体が大きく変わろうとしている現在、図書館はその動きに取り残されているのではないか、との指摘があった。商用データベースへのアクセスや電子図書の利用があたりまえになっている米国の例を挙げ、国内の図書館も、紙の資料から電子資料へ、単体の図書館からネットワークによる図書館群へと思い切ってシフトしていくべきではないか、とのこと。そうなったところで、みんなで買ってみんなで利用するという図書館の概念はいっこうに揺らぐことはないのだから…

住民にとって有用な情報源であり続けるために、情報社会の中で図書館がどういうポジションにあるべきなのか、公共図書館でなければできないことは何なのかを常に考えていかなければならないと痛感させられた集会であった。

（若狭図書学習センター　坪田　直純）

◇奉仕部門

「図書館サービスの原点を探る－21世紀を見据えて」という主題のもとに開かれた研究集会だったが、本当に今、我々が直面している問題が浮き彫りになっている集会だったと思った。三つの地方図書館の事例発表は、それぞれの図書館が、その図書館に求められていることに的を絞って、そのことに集中的に努力している様がよくわかり、自分の図書館はなにを重点的に見つめたらよいのかを考えさせられた。

急速なスピードで進んでいる情報化社会の中では、図書館も本だけの収集にこだわってはいられない。雑誌、パンフはおろか、インターネットによる資料の収集、整理も必要になってくる。そうしなければ現代の住民のニーズに応えることはできない。そんな中で、図書館の基本ともいえるレファレンス業務をこなすためには、我々図書館員は今、何をしたらよいのだろうか。魅力ある現代図書館づくりのためには、情報のリーダーとまではいかなくても、すくなくとも住民の思いについていかれなくてはいけない。小さな図書館でも世界中の情報が得られるためには、県立などとの連携もさらに必要になると共に町の図書館はその町に合った、その町のニーズに応えられる図書館づくりを目指すべきだろう。

（三国町立図書館　毛海　由美子）

◇児童図書館分科会

11月8・9日の2日間、「すべての子どもに読書の喜びを～豊かな読書環境づくりをめざして～」をテーマに長野市で開催された。

安曇野ちひろ美術館館長の松本猛氏による基調講演があり、「絵本の過去・現在・未来」をテーマに、氏の絵本に対する思いをお聞きした。近頃、映像媒体は子どもたちにとってより身近なものになってきている。しかし、本には「触る」、そして「反復する」喜びがあり、「もの」としての絵本の楽しみ、喜びは失われることはない、との言葉に、図書館員として励まされた。

分科会では、「子どもと本を結びつける情報提供」に出席した。調布市では、図書館員自らが選定した児童書リストを発行し、リストの本は必ず書架に並んでいるようにしている。また、きれいな絵本を提供するため、買い替えも常に行っている。子どもへの図書館利用・読書指導を徹底すれば、将来よい利用者になってくれる、という図書館員の信念が伝わる事例発表だった。

鎌倉市大船図書館では、「児童のレファレンスはわかりやすい棚作りから」と考え、NDCにこだわらず、利用者にわかりやすいように、テーマ別に配架をしており、子どもが自分で本を探せるように工夫している。

（武生市立図書館　高坂　公子）

図書館は 未知の世界への 宇宙船（第7回 図書館標語コンクール最優秀作品 小中学校の部）

❑平成12年度東海北陸地区公共図書館司書等専門研修

9月26日から30日までの5日間、三重県津市の三重県立生涯学習センターにおいて、東海北陸地区公共図書館司書等専門研修が開催された。参加者は107名、うち本県からは2名が出席した。

私の参加した前半2日間は、1日目に三重大学人文学部教授柴田正美氏による「これからの公共図書館」、2日目は、NPO図書館の学校事務局長佐藤涼子氏による「これからの学校教育と公共図書館」、子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主の増田喜昭氏による「児童書の選書」、インターアクトプランニング代表取締役社長田中良治氏による「インターネットと図書館サービス」というそれぞれのテーマで講義と質疑応答が行われた。

今回の研修で各講師に共通した主なテーマは、今後公共図書館が積極的に取り組むべき2つのテーマ—所蔵資料の枠を超えた電子資料や有料DB、インターネット上の情報などの充実した情報提供サービスの問題と公共図書館児童サービスと学校図書館との人を介した連携の問題であった。また各講師は、従来の所蔵資料の提供によるサービスに重点を置くだけでなく、その延長上のサービスも積極的に行えるよう、司書は更なる技術の修得と人的ネットワークを形成することが大切であると指摘された。

（福井県立図書館　中川　麻理子）

❑平成12年度東海北陸地区公共図書館研究集会

平成12年10月18日、19日の両日、三重県津市において東海北陸地区公共図書館研究集会が開催されました。

テーマは「レファレンスツールとしてのインターネットの利用」。国を挙げてのIT革命の中、図書館業務の中に如何にしてインターネットを活用していくべきかという研究討議でした。

レファレンスを受けた際に、これまでだと文献を利用して答えていくという方法を採っていましたが、これからはインターネット上の検索エンジンやホームページ、各種サイトを利用してレファレンスに活用していこうというのが研究テーマでした。

レファレンスへの利用法としては、文献に到達する過程としての利用、文献で不十分な情報の補完としての利用、最新の情報としての利用等が考えられますが、なんだか、インターネットで答えを出すのなら、別に図書館でなくても…などと思ってしまうアナログな私です。

結局は、それを使いこなす職員のパソコン習熟度によって、利用者への案内に差がでないようにすることや、その情報から何らかの文献に到達できたかということが大切だと思いました。

（丸岡町民図書館　山田　尚子）

❑福井子ども読書活動推進ネットワーク整備事業

平成12年の「子ども読書年」を契機に、福井県内で子どもの読書活動を推進している市民ボランティア（グループ・個人）を中心に、各地域および全県のネットワークを構築することを目的として、福井子ども読書活動推進ネットワーク整備事業を平成12年度から14年度の3ヵ年に渡って実施しています。

平成12年8月に実行委員会を立ち上げ、ボランティアの調査等の事業を行ないました。

平成13年2月に、下表の県内5地域における各地域福井子ども読書活動推進ネットワークを立ち上げました。3月にはその代表・副代表によって構成される代表者会議を立ち上げ、代表理事として丹南地域代表の浅井順子氏が選ばれました。これにより、福井県全体のネットワークがスタートいたしました。

事業の実施にあたっては、ボランティアの方々をはじめ、子どもの読書に関わる図書館職員や学校関係者の方々からのご協力と熱心な取り組みにより、いずれも予想を上回る反響やご参加をいただくことができました。ご協力いただいた方々の想いを、これからのネットワーク事業につなげていきたいと考えています。

地域名	ボランティア数			役員数	役　員	市町村名	氏　　名	所　　属
	グループ	個人	計					
福井・高志	37	15	52	2	代　表	福井市	土　肥　淑　子	福井市立図書館ボランティア
					副代表	松岡町	源　野　京　子	松岡おはなしの会代表
坂　井	7	7	14	2	代　表	丸岡町	杤　谷　洋　子	なの花文庫主宰
					副代表	金津町	大　下　たみ子	童話の会代表
奥　越	7	0	7	2	代　表	勝山市	安　岡　恵　子	くまの子文庫主宰
					副代表	大野市	加　藤　美由紀	大野市図書館ボランティアグループ
丹　南	18	6	24	2	代　表	武生市	浅　井　順　子	おはなしあのね代表
					副代表	鯖江市	斧　美　都　子	「こどものつどい」協力者グループ代表
嶺　南	11	1	12	2	代　表	敦賀市	寺　井　三枝子	つるが語り部の会ほんならな代表
					副代表	小浜市	芝　崎　明　子	小浜子ども劇場代表

本はいつでも 心の支え 師です 友です 家族です（第7回 図書館標語コンクール最優秀作品 一般の部）

改築図書館紹介

図書館の基本を求めて

三方町立図書館

もう15年ほど前になるだろうか。図書館司書専門講座を東京上野にある国立社会教育研究所で受けた。その講義の一つに「町村図書館の現状と課題」というようなものがあった（確か講師は元滋賀県立図書館長の前川恒雄氏だったと思うのだが）。話はほとんど忘れたが、どんなに小さな町村の図書館でも蔵書数が５万冊はないと図書館の機能が果たせない（つまり、住民の要求を真に満たせない）というくだりが印象に残った。

当時、三方町立図書館は蔵書数２万５千冊ほどの規模であったので、代わりと言っては変だが、図書館の集会行事を一生懸命やっていた。絵本の原画展や科学遊びのようなことまで、その行事の多様さに少し自己満足もしていたように思う。

講師の話は理解できる。が、５万冊なんて小さな町では無理に決まっている。

しかしその後、15年間の図書館の現場で最も強く感じたことは、図書の少ないことへの無念さだった。少し専門的な図書になると全くない。テーマを指定されるとたちまち図書の不足を感じる。もちろん、そんな時には相互貸借に力を入れ始めた県立図書館に大いに助けてもらった訳だが、やはり自分の館にないのはやるせない。かくして７年ほど前から、蔵書５万冊、蔵書５万冊、を念仏のように唱え始めたのである。

一方で蔵書が３万５千冊に達してきた開架室は、足の踏み場もないほどの狭さで、次々と閲覧用の机や椅子を取り払っていくより仕方なく、利用者の皆さんから苦情が出始めた。もういずれにしても飽和状態なのであった。

５年前から図書館の増築を、町理事者に依頼するようになった。何度も何度も図書館協議会などを通じて要求を繰り返し、ようやく平成12年度事業として図書館の増改築事業が認められた。開架室が2.5倍の規模になる予定であった。

文化祭の折、どんな図書館が望ましいか町民にアンケート調査をしたことがある。「ゆったりとして、雑誌やコミックが読みたい」「おしゃべりができる図書館が良い」「コーヒーなんかを飲みながら読書したい」など、こちらの思いとは別に、ゆったり指向で、サロンのような図書館像が求められているようだった。

しかし、図書館司書としてはやはり蔵書数にこだわりたい。15年前に心に焼き付いた５万冊が実現できるような増改築をしたい。そんな葛藤が日々つづいた。

三方町のように町の財源が豊かでないところでは、どうしても国の補助金に頼らざるを得ない。今回の増改築事業も、新築にならなかったのも補助事業のためでもあり、また増改築事業そのものも、こちらの思い通りにはなかなか進まない。それでも最大限、利用者の要望と、職員の要求とが一致するよう、設計図を何回か引き直してもらった。書架と書架の間はゆったり取ること。その代わり壁面書架は天井まで高く取ること。ブラウジングコーナーはなくても、椅子をできるだけあちこちに置くこと。照明は思い切って明るくすること（おかげでオープン後、節電を呼び掛けられているが）。お年寄りにも障害のある人にも利用してもらえるよう、完全なバリアフリーにすること（うちの図書館は公民館との併設なので、バリアフリーのための諸施設は合同で使えるようにしてある）。このような苦労と矛盾をかかえてのリニューアルオープンであった。

現在、蔵書数は３万８千冊。５万冊までにはスペースができたものの図書購入費もからみ道は遠い。しかし今後５年間で、５万冊を到達できるように努力して行きたいと思っている。図書館は有機体であり、その構成要素は、資料（図書）・建物・人（職員）から成る、と教わったのも確か15年前の講座であったように思う。

（文責・河原　正実）

さあいこう きょうはどの本 よもうかな（第７回 図書館標語コンクール優秀作品 小中学校の部）

平成12年度県外研修参加者名簿

研　　修　　名	図　書　館　名	氏　　名
平成12年度第４回ILLシステム講習会	福井医科大学附属図書館	坂井　優子
平成12年度目録システム講習会（雑誌コース）	仁愛女子短期大学附属図書館	笛吹　真弓
新CAT/ILLシステム説明会	福井工業高等専門学校図書館	石上　秀雄
第13回国立大学図書館協議会シンポジウム（西地区）	福井医科大学附属図書館	伊藤　茂夫
平成12年度北信越地区国立大学図書館研修会	〃	坂井　優子
公立大学協会図書館協議会研修会	福井県立大学情報センター	山本　和之
私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会平成12年度研修会	仁愛女子短期大学附属図書館	森川　輝美
第61回（2000年度）私立大学図書館総会・研究大会（川崎市専修大学）	福井工業大学図書館	鉾之原善章
平成12年度短期大学図書館全国研修会	仁愛女子短期大学附属図書館	清水　孝子
高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジュウム	福井工業高等専門学校図書館	三上　恵子
平成12年度図書館等職員著作権実務講習会	若狭図書学習センター	山田　陽子
	県立図書館	田中　智美
	福井医科大学附属図書館	安野　辰巳
東海北陸地区著作権セミナー	県立図書館	中川麻理子
	〃	小寺　由記
国立国会図書館総目ネットワークモニター図書館研修会	敦賀市立図書館	小泉美喜男
国立国会図書館第14回保存フォーラム	県立図書館	鷲山　香織
子どもの心を育てる読書活動推進大会	県立図書館	渡辺　　力
第20回児童図書館員養成講座	清水町立図書館	松原　和子
	県立図書館	中山　　史
第22回文化財の虫菌害保存対策研修会	県立図書館	長野　栄俊
第６回資料保存研修会	県立図書館	保田　弘子
都道府県職員のための町村図書館づくりセミナー	県立図書館	渡辺　　力
つくりませんか図書館を町村図書館づくりセミナー　福島会場	宮崎村立図書館	田黒　哲雄
平成12年度図書館司書専門講座	県立図書館	菅井　清美
平成12年度図書館職員研修会	鯖江市図書館	中川　朋世
平成12年度（第86回）全国図書館大会	福井工業高等専門学校図書館	吉村　芳武
	県立図書館	菅井　清美
平成12年度全国公共図書館奉仕部門研究集会	三国町立図書館	毛海由美子
	県立図書館	河合　幸子
平成12年度全国公共図書館整理部門研究集会	金津町立図書館	河村みゆき
	鯖江市図書館	鈴木　浩二
	〃	青木　裕美
	大野市図書館	山村　和美
	若狭図書学習センター	坪田　直純
	県立図書館	小寺　由記
	〃	牧田真理恵
	〃	松井　一代
	〃	鷲山　香織
第30回児童に対する図書館奉仕全国研究集会	福井市立図書館	坪内　啓子
	福井市立みどり図書館	西本真由美
	大野市図書館	乾　　孝子
	鯖江市図書館	黒川　実江
	武生市立図書館	高坂　公子
	若狭図書学習センター	野田紀代美
	県立図書館	千秋眞佐子
平成12年度東海北陸地区公共図書館研究集会	春江町立図書館	浦谷　昌野
	丸岡町民図書館	山田　尚子
	坂井町立図書館	長谷川春美
	県立図書館	井藤　久美
平成12年度東海北陸地区公共図書館司書等専門研修	県立図書館	中川麻理子
	〃	佐々木未来
平成12年度日本図書館協会地方講習会	武生市立図書館	瓜生　泰広
	鯖江市図書館	葛野　順子
	〃	土橋　富子
	今立町立図書館	為沢さち子
	若狭図書学習センター	吉川　千鶴
	県立図書館	鷲山　香織
	〃	佐々木未来
北陸公共図書館コンピュータ化推進協議会研修会	鯖江市図書館	一峰　奈美
	〃	窪田　和恵
	〃	山田　晴江
	県立図書館	川崎　健治
	〃	島貫　俊秀
北陸公共図書館コンピュータ化推進協議会第２回研修会	県立図書館	川崎　健治
	〃	中川麻理子
東京国際ブックフェア2000	県立図書館	南部　朋江
第２回図書館総合展	県立図書館	竹内　誠司
あすの図書館のあり方を考えるつどい	県立図書館	大滝　幸子
平成12年度日本図書館協会「公共図書館の任務と目標」研究集会	県立図書館	島貫　俊秀

図書館は 大きな大きな 事典です（第７回 図書館標語コンクール優秀作品 小中学校の部）

談話室

入試戦線真っ只中

日本列島、受験シーズン真っ盛り。十数年前は大学入学試験を受験する立場であり、このシーズンの真っ只中にいたひとりであった。昨年から勤務先が大学にかわり、今度は別の立場で真っ只中にいるひとりである。

受験する立場であった頃にはそんな裏方のことなどこれっぽっちも考えたことがなかったが、例年、命懸けと言っていいくらいミスがないか、念には念を入れて入試の準備を行っている。

受験生によっては複数回の受験機会があるかもしれない。大学は受験生がいなくならない限り、このシーズンは例年やってくる。そして毎年この緊張感が続く…。

しかし、今後はそうも言ってはいられないようだ。少子化に伴う受験者数の減少、独立行政法人化の動き…。

近い将来受験者がいないなんてことのないよう、魅力あふれる大学を作り上げていかなければならないと強く感じる今日この頃。

（福井県立大学情報センター　山本　和之）

「年賀状」のこと

「わぁーみんな手作業やざー」
「あのヘビが好き！」
「私、これすき！」
「かわいい！これほしい」

閲覧室の一角に設けた「年賀状展」の光景である。毎年書家や画家、その他いろんな方の手書きの賀状が揃うわけだが、今年はさらに、２年６組の「家庭情報処理」の授業で作成したものを展示させていただいたので、若さあふれ大変好評だった。

この賀状の時期になると必ず、やましさに似た感情を思い出す。

それは、数十年前にもなる前任校の校長が集会か何かで「僕は賀状の表書きだけで、誰から来たかわかる」という内容のものだったが、その時は顔から火が出るおもいで立っていられない程恥ずかしかった。なぜなら、悪筆のうえ丁寧さに欠ける自分を知っていたからである。

あれから学校も変わり中年を越し、孫もできた年代になっても性格と悪筆は簡単にはなおらないものである。

どことなく風格のあったその校長から、「巳」の口にした「大吉」が届いた。

（三国高等学校　船谷　美那子）

広報活動の大切さ

毎月美浜町で発行する広報紙に、図書館コーナーを見開き２ページ分頂いています。ようやく原稿ができたと、ほっとする間もなく翌月の原稿探しや、写真を撮ったりと頭を悩ませます。構成が決まると結構スムーズに行くのですが、毎月となると本来の図書館業務に加えてですから、計画的に進めないと締めきり間際にドタバタすることもしょっちゅうです。特に人の名前や地区名を載せる時は、神経を使います。(それでも間違えることが…)

とても大変な業務ですが、心待ちにしていて下さる町民の方が多く、広報活動としてとても効果的です。図書館から遠い地区の人や、今まで一度も利用されていない人にも図書館から情報を伝えることで、図書館を身近に感じて下さればと願っています。

今後ケーブルTVでも図書館情報を発信していく予定ですが、より多くの町民の方に図書館の存在をアピールして、その人なりの図書館利用を進めていけたらと思っています。それには私自信日々視野を広め、人に伝える言葉を持ち得る人間にならなくては…と思っているのですが難しいです。

（美浜町立図書館　松井　由起子）

「世界四大文明展」

平成12年の夏に東京・横浜で世界四大文明展が開催された。古代の遺物に興味がある私としては気になったが、予定を入れられず頭を悩ませていた。しかし、全国を巡回するとの情報を聞いて、近くに来るのを首を長くして待つことにした。

平成13年に入ると石川の県立美術館で中国展が、大阪の国立国際美術館でエジプト展が開催されたので、早速見に行った。中国展では、唐代の壁画「宮女図」、兵馬俑、青銅器など、エジプト展では、神官アメン・アム・ペルムトの彩色木棺と内蓋、黄金のマスク、石像など貴重な品々が展示されていた。これらの遺物を目の前に、人類が数千年も前に成し遂げた壮大な偉業に改めて感激し、ロマンを思い描きつつ、古代文明の魅力を満喫することができた。

「百聞は一見に如かず」ということわざがあるが、写真や映像ではなく、実物を見た時の感動は格別である。今やテレビやインターネットなど情報は溢れていて便利ではあるが、実際に触れ合うことの重要性を忘れないようにしたい。

今後はぜひ、現地に行きたい！！

（朝日町立図書館　堤　　和代）

平成12年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会

＊開催日　平成12年８月24日㈭　13：30～16：30
＊会　場　福井工業大学
＊参加者　加盟７大学（福井高専を含む）の館員　26名
＊研修内容
講演会…(1)　電子図書館の動向と富士通の取り組み
講　師；富士通㈱　堀井　光彦
(2)　洋雑誌に代わる文献検索・複写サービス利用の試み
発表者；福井工業大学　鉾之原善章
見学会…金井学園総合健康増進センターの見学

今回は福井工業大学が幹事校となり、上記内容の研修を受けて頂いた。テーマは「電子図書館」である。電子図書館は、「大学図書館に電子図書館的機能を整備していくことが急務の課題」(学術審議会建議）と言われているように、今日の大学図書館全体のテーマでもある。

まず、この方面での専門家である富士通の堀井氏に、世界或いは我が国における電子図書館の現状・動向・問題点などについて話して頂いた。ついで、最近、国際的先端学術情報取得の媒体を洋雑誌からインターネットを利用した電子的媒体に代えた福井工大図書館の体験を発表した。この後、平成８年設立の金井学園総合健康増進センターを見学し、希望者には温泉に入浴して頂いた。

（福井工業大学図書館　鉾之原　善章）

福井県学校図書館協議会この一年

５月19日　第１回県学校図書館協議会役員会
５月26日　全国学校図書館協議会総会
４月～６月
第26回県小中学生読書感想文コンクール
（福井新聞社主催、県SLA後援）に参加
６月７日　第２回県学校図書館協議会役員会
第１回県学校図書館協議会理事会
６月～10月
第46回青少年読書感想文コンクール
（全国SLA・毎日新聞社主催）に参加
７月11日　第３回県学校図書館協議会役員会
８月２日～４日
第33回全国学校図書館研究大会（奈良大会）
（県内より20名参加）於　奈良市
８月９日～10日
第12回近畿学校図書館夏季セミナー
（県内より４名参加）於　兵庫県
９月～１月
第12回読書感想画コンクール
（全国SLA・毎日新聞社主催）
11月９日　第46回青少年読書感想文コンクール県審査
１月19日　第12回読書感想画コンクール県審査
１月31日　第４回県学校図書館協議会役員会
２月７日　第５回県学校図書館協議会役員会
第２回県学校図書館協議会理事会
２月７日　「福井県の学校図書館」第46号発行
２月８日　全国学校図書館協議会総会

（福井県学校図書館協議会事務局長　西尾　攻）

平成12年度日本図書館協会地方講演会

平成12年11月29日富山県立図書館において、平成12年度日本図書館協会地方講習会が開催された。参加者75名、うち本県からは６名が参加した。

近年図書館ボランティアの活動は、サービスの質を向上させる上で大きな役割を果たしつつある。今回は、その先進的な事例を学びながら今後のあり方について協議がなされた。

まず群馬県立図書館の大山達郎氏から基調講演があり、続いて鯖江市図書館友の会の窪田邦彦氏と富山県立図書館の平野幸子氏による事例発表の後、パネルディスカッションが行われた。

図書館ボランティアは、自主的に、やりがいをもって図書館の主体的な活動を助け、これにより「開かれた図書館」「市民と作る図書館」を実現させるために存在している。決して単なる労働力ではないのだということを認識した上で、職員業務との線引きや、個性を生かした組織づくりなどが今後の課題であろうということであった。

今回、担当者として研修に参加して、図書館ボランティアの現状を知り、改めてその必要性を痛感した。今後も図書館の良きパートナーとして、ボランティアと歩んでいきたいと思う。

（鯖江市図書館　土橋　富子）

平成13年度研究集会および研修会(予定)

区　　分	開催地(会場)	期　　間
全国図書館大会	岐阜県 岐阜市	2001年10月24日～26日
整理部門	徳島県徳島市徳島県郷土文化会館	2001年11月15日～16日
奉仕部門	兵庫県神戸市 (舞子ビラ神戸)	2001年10月18日～19日
移動協力分科会	岡山県岡山市 (まきび会館)	2001年10月４日～５日
日本図書館協会 地方講習会	愛知県 名古屋市	期日未定
東海北陸地区公共図書館司書等専門研修	富山県 富山市	期日未定
東海北陸地区公共図書館研究集会	愛知県 名古屋市	期日未定

広がるよ 子どもの夢が 絵本から（第７回 図書館標語コンクール優秀作品 一般の部）